



取材にご協力いただいた「古河ペロ」の皆さん

一人一人の個性が尊重されるまちを目指して

LGBTQ+に関する相談窓口

茨城県性的マイノリティに関する相談室

受付時間 毎週木曜日18時～20時
(年末年始を除く)
TEL029-301-3216



よりそいホットライン(24時間無料電話相談)

性別や同性愛に関する相談
TEL0120-279-338/自動音声案内「4」

異 性愛が当たり前だという従来の固定観念から、何気なく発した言葉に傷ついている人たちがいます。

例えば、あなたの周りの男の子が赤やピンク色のランドセルを選んだ時、どう思いますか？ 男の子なら黒や寒色系だろうという思考にとらわれてはいませんか。人は誰も同じ考えを持っているわけではありません。自身の価値観にとらわれず、他人を知り、その人の個性を尊重することは大切なことです。

LGBTQ+の人たちが安心して生活でき、一人一人の個性がキラリと輝く誰もが自分らしく活躍できるまちを一緒につくっていきましょう。

Interview

誰もが認められる居場所を



市内で唯一の多様性をテーマにしたバー「古河ペロ」の田口さんに、自身が体験してきたことやLGBTQ+の未来について伺いました。

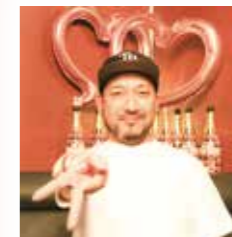
私は幼い頃から同性が好きで、周りの子と違うのかなという実感は抱いていました。小学生になると、ますます同性に好意を抱くようになって……。最初は少し恥ずかしくて隠してたけど、5年生の頃にバトントワリングクラブに入会したの。謝恩会でクラブの発表をしたときに周りにばれちゃって、靴隠しや冷やかしの受けたこともあった。でも、女の子の友達が守ってくれたわ。気が付けば自然と性に対してオープンになっていった私を、周囲の友達は理解して受け入れてくれたんです。

学生時代は彼女がいた時もあったからバイセクシャルだったのかもわからない。でも、20代で上京して、新宿二丁目の「おかまバー」で1年間働いたの。その時、自分は「ゲイ」だと確信したわ。今こそLGBTQ+という言葉が普及して性的マイノリティに関する認知が広がってきたけど、当時は今よりも閉鎖的なコミュニティだった。いつかLGBTQ+の人もそうじゃない人も楽しめるお店を出したいという夢があったから、いろんなお店で経験を積むために、全国各地を転々としたの。

5年前、ようやく地元であるこのまちで自分のお店を持つことができました。これまでたくさんLGBTQ+の人たちを見てきたから「古河ペロ」はミックスバーとして、い

ろんな性的マイノリティの人が集まれる場所にしようと決め、少しでも支援につながればという思いでこのお店を作ったの。今では悩みを相談しに来る人や友達同士で来店して、店内でカミングアウトする人もいます。これからの居心地がよく、リラックスできる場所であり続けたいです。

まだまだ世の中のLGBTQ+への理解は足りないけど、無理に周囲にカミングアウトする必要はないと思う。私も家族に話してないし、するつもりもありません。民間企業や行政によるLGBTQ+支援の取り組みが進み、社会の理解が広がることで、もっと住み良いまちになってくれることを願っています。



田口政男さん(40代)



ホームページ



Instagram